



トランペットを担当する皆さん

表通り裏通り

子育ても吹奏楽も 楽しんでいきます ～ ママさんブラス川越 ～

子育て中のお母さんが中心となって活動している、ママさんブラス川越。平成19年5月に結成され、ことし活動開始から2年を迎えます。メンバーの皆さんは、家事や子どもの世話など、忙しい時間の合間を縫って、練習をしています。この記事では、ママさんブラス川越の活動の様子を紹介します。



月3回の練習は、曲全体の音合わせが中心になります



山口さんの振る指揮棒に合わせて、合奏が行われます

ママさんブラス川越は、代表の吉原洋美^{よしはらひろみ}さんを中心に、子育て中の母親が吹奏楽を楽しむ場を作ろうと結成されました。インターネットやチャラシで呼びかけたところ、十人ほどが集まり、活動が始まりました。「小学生の時から、トランペットを演奏していました。しかし、出産後練習に行くのが難しくなりました。そこで、子どもを連れて練習ができる団体を作ろうと思い、結成しました」と吉原さん。現在は六十人が在籍し、常時三十人から四十人くらいが、東部地域ふれあいセンターで活動しています。楽器は各自で用意するため、メンバーのほとんどは吹奏楽の経験者です。中には、あこがれていた楽器に挑戦している方もいます。

活動は、月に三回の練習が中心。それに加え、多くの皆さんに音楽に親しんでほしいと、月一回のペースで訪問演奏を行っています。今まで、保育園・公民館・福祉施設、子育て関係のイベントなど、子どもや高齢者の前で演奏を行いました。演奏する曲は、アニメーションのテーマ曲や童謡を編曲したものが中心になっています。現在、五月二十三日(土)に行われる、ファミリーコンサートに向けて、皆さんは練習をしています。

結成当時から指揮者を務める、山口秀樹^{やまぐちひでき}さんは「ここでの指導は、楽しく教えることを心がけています。子育てでたいへんな中、時間をやりくりして練習に来ているので、この時間を楽しんでもらいたいと思っています」と話していました。

メンバーの皆さんは、練習に子ども連れで参加しています。子どもたちは母親のそばにいたり、練習場所の一角で遊んだりして過ごしています。演奏会で、子どもたちが舞台上上がってくるのもあたりまえの光景になっています。自分の子どもは自分で世話をするのが、ママさんブラス川越の約束事です。しかし、練習に夢中になると、つい子どもから目を離してしまいがち……。そうい

第2回 子育てフェスタ 川越

主催 川越市私立保育園協会 後援 川越市



演奏会では赤いエプロンを着けて、舞台上がります。写真は、11月に行われた第2回子育てフェスタ川越の様子



キッズタイムの出し物はメンバーで考えています



お母さん、これなあに？



演奏を聞きながら、すやすやと夢の中へ



古川さんが読む絵本に、子どもたちが集まります



ぼくは、将来の指揮者だよ

った場合のために、子どもたちの面倒を見るサポート会員がいます。そのサポート会員である、古川佳子ふるかわよしこさんは、絵本の読み聞かせをしたり、泣いている子をあやしたりと会場全体をくまなく動き回っています。「皆さんが練習に集中できるように、子どもたちに目を配っています。遊び相手として、子どもたちが私の顔を覚えていてくれるとうれしいですね」と古川さん。

練習の途中に、キッズタイムという時間が設けられています。これは、いっしょに来ている子どもたちに、楽しんでもらうために行われています。この日は、寸劇と誕生日会でした。始まりの合図と共に、待ちかねた子どもたちがすぐさま、集まってきました。当番のメンバーが準備した内容に、子どもたちは大喜び。「家族の協力があつて、私たちの活動ができるのだと思います。それに感謝し、これからも多くの皆さんに聞いてもらえる演奏ができるよう、今後とも練習をしていきます」と吉原さんは話していました。

子育てをしている皆さんがみずからつくり出した、ママさんブラス川越。そこには、時間をやりくりして、子育てと自分のやりたいことを両立させている皆さんの姿がありました。子育て中は、つい、外に出る機会が減ってしまいがちなようです。子育てと趣味を両立することができるとグループを自分たちの手でつくっていくことで、子育てがもっと楽しくなるのではないのでしょうか。